

令和5年度 家庭科 シラバス

- | | | | |
|-----|------|-----------|--------|
| 1. | 午前部 | 家庭総合① | ・・・P2 |
| 2. | 午前部 | 家庭総合② | ・・・P3 |
| 3. | 午前部 | 子どもの発達と保育 | ・・・P5 |
| 4. | 午前部 | 服飾手芸 | ・・・P6 |
| 5. | 午前部 | フードデザイン | ・・・P7 |
| 6. | 午後授業 | 保育基礎 | ・・・P8 |
| 7. | 午後授業 | 生活と福祉 | ・・・P9 |
| 8. | 午後授業 | 服飾手芸 | ・・・P10 |
| 9. | 夜間部 | 家庭総合① | ・・・P11 |
| 10. | 夜間部 | 家庭総合② | ・・・P12 |
| 11. | 夜間部 | フードデザイン | ・・・P13 |
| 12. | 夜間部 | 子どもの発達と保育 | ・・・P14 |

家庭総合① (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。		
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇家庭科の学び方 1 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(家庭科の学び方・生活に生かそう) ・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・被服を作る ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活 【実習：エプロン作り】
後期	2 食生活をつくる 3 経済生活を営む 4 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食品の選択と安全 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活の文化と知恵 ・これからの食生活 【調理実習：3回】 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払のルールと方法 ・持続可能な社会を目指して ・一人ひとりの力で社会を動かす

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けているかを、ワークシート・定期考査・作品などで評価する。	生活の中から課題を設定し、生涯を通して課題を解決する力があるかを、ワークシート・実習レポートなどで表現できたかを評価する。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題解決に主体的に取りくんだかを、ワークシート・実習レポート・授業実習への意欲や態度で評価する。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

家庭総合② (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	人の一生と家族・家庭及び福祉・住居などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇家庭科の学び方 1 人生をつくる 2 子どもと共に育つ	・ガイダンス「家総②をはじめるとあって」 ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会 ・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・これからの保育環境 【実習：幼児のおやつづくり】
後期	3 超高齢化社会を共に生きる 4 住生活をつくる	・超高齢社会の現状 ・高齢期の心身の特徴 ・高齢者の自立 ・これからの超高齢社会 【実習：高齢者体験】 ・住居の機能 ・安全で快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活 【実習：平面構成】

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けているかを、ワークシート・定期考査・作品などで評価する。	生活の中から課題を設定し、生涯を通して課題を解決する力があるかを、ワークシート・実習レポートなどで表現できたかを評価する。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題解決に主体的に取りくんだかを、ワークシート・実習レポート・授業実習への意欲や態度で評価する。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

家庭総合② (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生を生涯発達の見点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解し、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識し、各自の生活設計を考えます。 ・子どもの発達と保育、子どもの福祉などについて理解し、子どもの健全な発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について学習します。 ・高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解し、介護の基礎を体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について学習します。 ・住居の機能、住空間の整備などについて科学的に理解し、住生活の文化に関心をもち、必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにします。 		
使用教科書	家庭総合 ともに生きる 明日をつくる (教育図書)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇はじめに 1人の一生と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス「家総②をはじめるとあって」 ・人生ってなんだろう？ ・青年期とはどんな時期？ ・家族ってなんだろう？ ・家族と社会のかかわりは？ ・子どもはどう育つのだろう？
	2保育	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんはなぜかわいい？ ・親になるとはどういうことか？ ・子育てを支える社会のしくみは？ 【実習：幼児のおやつづくり】 ・社会はどう高齢化するのだろう？ ・高齢期ってどういう時期？ ・高齢期の生活を支えるしくみは？ ・高齢者の介護を学ぼう ・どのように暮らす？ ・地域のなかで暮らす ・文化・環境と暮らし 【実習：平面構成】
後期	3高齢者	
	4住生活	

3 評価

履修の条件	家庭総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、授業や実習への意欲・態度などを総合的に評価します。
留意事項	実習費を徴収します(500円)

子どもの発達と保育 (午前部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの健全な成長を図ることができるよう学習します。		
使用教科書	子どもの発達と保育 新訂版 (実教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇はじめに	ガイダンス「子どもの発達と保育を始めるにあたって」
	1 子どもの発達の特徴	・発達と乳幼児期の意義 ・発達と保育環境
	2 子どもの発達の過程	・児童観と発達観
後期	3 子どもの生活	・子どもの発育 ・子どもの精神発達 ・人間関係の発達 ・生活と養護 ・子どもの遊び 【実習：おもちゃ作り、絵本の読み聞かせ】
	4 子どもの保育	・子どもの遊び ・生活習慣の形成 ・健康管理と事故防止
	5 子どもの福祉	・保育の意義と重要性 ・家庭保育と集団保育 ・保育の方法 ・子どもの福祉 ・子育て支援 【実習：保育技術検定（3，4級）、 離乳食、幼児のおやつ作り】

3 評価

履修の条件	家庭総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、授業や実習への意欲・態度などを総合的に評価します。
留意事項	実習費を徴収します（1，000円）
アドバイス	自分の幼いころを思い出し、親になった時のことも想像しながら、取り組みましょう。

服飾手芸 (午前授業)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用することができるようにします。		
使用教科書	なし	補助教材	新装版はじめての「ぬう」と「あむ」 (主婦の友社)

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇はじめに 1 手芸の種類と変遷 2 服飾材料としての各種手芸の技法 3 手芸品の製作	ガイダンス「服飾手芸を学習するにあたって」 【実習例】 ・基礎ぬい(手縫いテスト)、ミシンの練習 ・キルトの小物 ・エコクラフトの小物 他、自由作品
後期	2 服飾材料としての各種手芸の技法 3 手芸品の製作	【実習例】 ・刺繍小物 ・ファスナーつき小物 ・編物 他、自由作品

3 評価

履修の条件	家庭総合①を履修済みであること。
評価の方法	授業・実習への取り組み、意欲、態度、提出物などを総合的に評価します。
留意事項	教科書がないので補助教材等を貸し出します。 実習費を徴収します。(3,500円)
アドバイス	服飾手芸に関する、基礎的・基本的な知識や技術を学んで、実生活でもいかせるよう、一生懸命取り組みましょう。手縫い、ミシン縫いをはじめとした細かい作業を1年間行います。それらが得意あるいは好きでないと大変厳しいです。

フードデザイン (午前部)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、自らの食生活の充実向上を目指して、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
使用教科書	フードデザイン 新訂版 (実教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 食生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の意義と役割 ・ 食をとりまく現状 ・ からだのしくみと食べ物 ・ 5大栄養素のはたらき ・ 食事摂取基準と食事計画 ・ ライフステージと栄養計画 【調理実習：7～8回】
	2 栄養素のはたらきと食事計画	
後期	3 食品の特徴・表示・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品の特徴と性質 ・ 食品の選択と表示 ・ 食品の衛生と安全 ・ 料理様式と献立 ・ テーブルコーディネート 【調理実習：7～8回】
	4 料理様式とテーブルコーディネート	

3 評価

履修の条件	家庭総合①を履修済みであること
評価の方法	授業に積極的に参加し、意欲的に取り組むことが一番大切です。 定期考査、提出物、授業や実習へ意欲・態度などを総合的に評価します。
留意事項	実習費を徴収します(4,500円) ※前期・後期を通して調理実習は15回前後行います。
アドバイス	調理実習は、食品衛生と安全に十分配慮して実施します。エプロン、三角巾、マスクを必ず準備してください。授業で学んだことや調理実習で身につけたことを、毎日の食生活の中で実践していきましょう。

保育基礎 (午後授業)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う人として解決する力を養う。 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
使用教科書	保育基礎 (実教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇はじめに 1 子どもの発達 2 子どもの生活 3 子どもの文化	ガイダンス「保育基礎を始めるにあたって」 ・子どもの発達の特性 ・子どものからだの発達 ・子どもの心の発達 ・子どもの生活と養護 ・生活習慣の形成 ・健康管理と事故防止 ・子どもの遊びと表現活動 【実習：おもちゃ作り、絵本の読み聞かせ】
後期	3 子どもの文化 4 子どもの保育 5 子どもの福祉	・子どもの遊びと表現活動 ・保育の意義 ・保育の方法 ・保育の環境 ・子ども観 ・子どもの福祉 ・子育て支援 【実習：保育技術検定（3，4級）、 離乳食、幼児のおやつ作り】

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて理解し、関連する技術を身に付けているかを、ワークシート・定期考査・作品などで評価する。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けているかを、ワークシート・振り返りシートなど評価する。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組んだかを、ワークシート・振り返りシート・授業や実習への意欲や態度で評価する。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

※留意事項 実習費（1,000円）を徴収します。

生活と福祉 (午後授業)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。		
使用教科書	なし	補助教材	生活と福祉(実教出版)

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前 期	第1章 人の一生と生活・健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康の概念 ライフステージと健康管理 【実習：脈拍、呼吸、血圧測定】
後 期	第2章 高齢化の現状と高齢者の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の現状 高齢者の心身の特徴と病気
後 期	第3章 高齢者の自立生活支援	<ul style="list-style-type: none"> 自立生活支援の基本となる考え方 高齢者介護 【実習：高齢者疑似体験、介護食作り、点字、車椅子・ベッド・食事の介助】

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高齢者の健康と生活、介護などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているかを、ワークシート・定期考査・作品などで評価する。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人としての合理的かつ創造的に解決する力を身に付けるかを、ワークシート・実習レポートなどで評価する。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についたかを、ワークシート・実習レポート・授業実習への意欲や態度などで評価する。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

※留意事項 教科書がないので、補助教材を利用します。

実習費(500円)を徴収します。

服飾手芸 (午後授業)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用することができるようにします。		
使用教科書	なし	補助教材	新装版はじめての「ぬう」と「あむ」 (主婦の友社)

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇はじめに 1 手芸の種類と変遷 2 服飾材料としての各種手芸の技法 3 手芸品の製作	ガイダンス「服飾手芸を学習するにあたって」 【実習例】 ・基礎ぬい(手縫いテスト)、ミシンの練習 ・キルトの小物 ・エコクラフトの小物 他、自由作品
後期	2 服飾材料としての各種手芸の技法 3 手芸品の製作	【実習例】 ・刺繍小物 ・ファスナーつき小物 ・編物 他、自由作品

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識と、それらに係る技術を身に付けているかを、作品や振り返りシート、手縫いテストなどで評価する。	生活の中で服飾に関する課題を発見したり、手芸品を創造的に制作し服飾に活用することができるかを、作品や振り返りシートなどで評価する。	手芸に関する知識や技術を習得したり、手芸品を創造的に制作し、服飾に活用するために、主体的に取り組んだかを、振り返りシート、授業への意欲や態度などで評価する。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

家庭総合① (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。		
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇家庭科の学び方 1 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(家庭科の学び方・生活に生かそう) ・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・被服を作る ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活 【実習：エプロン作り】
後期	2 食生活をつくる 3 経済生活を営む 4 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食品の選択と安全 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活の文化と知恵 ・これからの食生活 【調理実習：3回】 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払のルールと方法 ・持続可能な社会を目指して ・一人ひとりの力で社会を動かす

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けているかを、ワークシート・定期考査・作品などで評価する。	生活の中から課題を設定し、生涯を通して課題を解決する力があるかを、ワークシート・実習レポートなどで表現できたかを評価する。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題解決に主体的に取りくんだかを、ワークシート・実習レポート・授業実習への意欲や態度で評価する。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

家庭総合② (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	年次履修

1 科目の概要

学習目標	人の一生と家族・家庭及び福祉・住居などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇家庭科の学び方 1 人生をつくる 2 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス「家総②をはじめるにあたって」 ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会 ・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・これからの保育環境 【実習：幼児のおやつづくり】
後期	3 超高齢化社会を共に生きる 4 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会の現状 ・高齢期の心身の特徴 ・高齢者の自立 ・これからの超高齢社会 【実習：高齢者体験】 <ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能 ・安全で快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活 【実習：平面構成】

3 評価

評価は次の3観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けているかを、ワークシート・定期考査・作品などで評価する。	生活の中から課題を設定し、生涯を通して課題を解決する力があるかを、ワークシート・実習レポートなどで表現できたかを評価する。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題解決に主体的に取り組んだかを、ワークシート・実習レポート・授業実習への意欲や態度で評価する。

※令和3年度以前の入学生については、従来の評価方法による。

フードデザイン (夜間部)	単位数	4単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、自らの食生活の充実向上を目指して、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
使用教科書	フードデザイン 新訂版 (実教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	1 食生活と健康 2 栄養素のはたらきと食事計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の意義と役割 ・ 食をとりまく現状 ・ からだのしくみと食べ物 ・ 5大栄養素のはたらき ・ 食事摂取基準と食事計画 ・ ライフステージと栄養計画 【調理実習：7～8回】
後期	3 食品の特徴・表示・安全 4 料理様式とテーブルコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品の特徴と性質 ・ 食品の選択と表示 ・ 食品の衛生と安全 ・ 料理様式と献立 ・ テーブルコーディネート 【調理実習：7～8回】

3 評価

履修の条件	家庭総合①を履修済みであること
評価の方法	授業に積極的に参加し、意欲的に取り組むことが一番大切です。 定期考査、提出物、授業や実習へ意欲・態度などを総合的に評価します。
留意事項	実習費を徴収します(4,500円) ※前期・後期を通して調理実習は15回前後行います。
アドバイス	調理実習は、食品衛生と安全に十分配慮して実施します。エプロン、三角巾、マスクを必ず準備してください。授業で学んだことや調理実習で身につけたことを、毎日の食生活の中で実践していきましょう。

子どもの発達と保育 (夜間部)	単位数	2単位
	履修区分	選択履修

1 科目の概要

学習目標	乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの健全な成長を図ることができるよう学習します。		
使用教科書	子どもの発達と保育 新訂版 (実教出版)	補助教材	なし

2 授業計画と学習内容

学期	授業計画	学習内容
前期	◇はじめに 1 子どもの発達の特徴 2 子どもの発達の過程 3 子どもの生活	ガイダンス「子どもの発達と保育を始めるにあたって」 ・発達と乳幼児期の意義 ・発達と保育環境 ・児童観と発達観 ・子どもの発育・子どもの精神発達 ・人間関係の発達 ・生活と養護 ・子どもの遊び
後期	3 子どもの生活 4 子どもの保育 5 子どもの福祉	・子どもの遊び ・生活習慣の形成 ・健康管理と事故防止 ・保育の意義と重要性 ・家庭保育と集団保育 ・保育の方法 ・子どもの福祉 ・子育て支援 【実習：おもちゃづくり、離乳食の調理】

3 評価

履修の条件	家庭総合①を履修済みであること。
評価の方法	定期考査、提出物、授業や実習への意欲・態度などを総合的に評価します。
留意事項	実習費を徴収します（1,000円）
アドバイス	自分の幼いころを思い出し、親になった時のことも想像しながら、取り組みましょう。

